

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677300065
法人名	社会福祉法人内之浦会
事業所名	グループホーム銀河の里 かな館
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町北方576番地 (電話) 0994-31-6623
自己評価作成日	令和 6年 2月 10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設は海や山、田畑など自然に囲まれた長閑な場所にあり、施設から見える景色から、季節の移り変わりを感じることが出来ます。
木材や畳を使用した温かみのある建物で、ホールは天井が高く大きな窓から光が差し込む為、明るく開放的な空間となっています。

・排泄の支援には力を入れており、入居後は排泄方法の見直しを行い、排泄状況の改善が見られることが多く、平均年齢現在92歳で約半数近くが、布ショーツを使用しておられます。

・同敷地内には同一法人の特別養護老人ホームやクリニックが隣接しており、敬老会や運動会等は合同で行うなど、日頃から交流・情報交換を行いながら、利用者様の状況に応じたケアに努めています。

・敷地内に広い畑があり、季節に応じた野菜を植え収穫しています。
・年2回は、季節の花植えを一緒に行い、施設の窓から見える所にプランターを配置しております。
・日常生活訓練の一貫として、洗濯量み、食器洗いや、野菜の下ごしらえ 調理など、取り組めることを自ら行うことで、自立支援に繋がっている所が最大のアピールポイントです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同法人の運営する特別養護老人ホームやクリニック、デイサービスと隣接しており、内之浦地区の福祉と医療の拠点となっている。

地域の夏祭りや秋に開催する銀河マラソン等、徐々に地域行事は再開されつつあるが、コロナやインフルエンザ等の感染状況が不安定なため、現在も外出は控えているが、隣接する特別養護老人ホームに入居している知人との面会や節分の豆まきを合同で実施するなど感染状況を考慮しながらできる範囲での交流を続けている。また、調理の際の食材を地元で購入するなど少しでも地域と関われるよう取り組んでいる。

利用者がその人らしく生活していけるよう利用者の思いを日常会話や様子、声を掛けた時の表情などから汲み取れるよう努めるとともに、日々過ごす中で気の付きは申し送りノートに記入して閲覧し、必要に応じて申し送り時や職員会議で話し合うなど常に情報共有を図っている。

災害訓練についても隣接する施設と協力し合う関係から合同で実施しており、夜間想定を含む火災訓練を年2回実施している。訓練に地域住民は参加していないが、隣接施設との協力体制を整備するとともに、近隣に住む職員の支援も得られる体制を整備している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は全員が見える所に掲示してある。理念の1人1人の人権を尊重し、真心を込めたケアに努め、家庭的な雰囲気ができている。	ユニット間の共有スペースと各ユニットフロアの目につく場所に理念を掲示し意識付けを図っている。理念にある笑顔や人権、真心を込めたケアについてを大切に考え日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染症防止の観点から地域行事は自粛中。コロナウイルスも5類になったことで、面会制限が緩和し感染対策を行った上で15分程度の面会は可能。季節性の感染症が落ち着くまでは外泊、外出は制限中。	コロナ禍以降、地域行事への参加や学校との関わりは自粛しているところであるが、隣接する特別養護老人ホームに入居している知人との面会や豆まきなどの節分行事を合同で実施するなど、できる範囲での交流を続けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	入所者家族であっても、認知症への理解が少ないことも多くあり、毎月の便りや電話にて近況報告している。その際支援があれば出来ることもあり、できないという固定概念を覆すことが認知症への理解に繋がっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症流行から、書面送付による開催となっていたが、R5/11/27より会議を再開している。	令和5年11月より参集による運営推進会議を再開している。家族や地域住民代表、行政職員等で構成する会議では入居状況や活動報告、ヒヤリハット報告等について話し合わせ、事業所の取り組みや実情の理解につなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事はその都度、電話などで助言を頂いている。最近R5/11月に運営推進会議を開催し、近況報告を行い、取り組みを聞いたりしている。	運営推進会議の議事録や介護関係の書類を提出する際に行政に出向くほか、相談事がある場合は電話でも助言を受けている。また、福祉事務所の職員が来られた際は利用者の様子について詳しく説明するほか、包括支援センターからの利用相談を受けることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に勉強会を行い、理解を深めている。夜間是不審者対策の為、施錠を行っているが、日中は施錠せず対応。単独行動による転倒等のリスクがある方でも見守りをしながら、動きに制限の無い自由な生活ができる様な対応を心掛けている。	「身体的拘束適正化に関する指針」を整備し、年4回法人全体での委員会「虐待防止及び身体的拘束適正化検討委員会」を実施するほか、関連する研修会を年2回実施している。スピーチロックについては、具体的にわかりやすく伝えられるよう気を配るとともに、早めに気付き対応できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても定期的に勉強会を行っている。日頃から声掛け・対応には配慮し、職員の気になる言動がある場合は、その都度声掛け・注意をするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会や介護支援専門員研修で学ぶ機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入所時は時間を掛け契約に関する説明や今後の対応、家族の要望等を聞くようにしている。遠方の家族へは、事前に必要書類を送り、目を通して貰うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の広報誌にて個別に生活状況を報告するほか、面会時や施設介護計画の説明を行う際、入所者の近況報告や家族の要望等の聞き取りも行っている。利用者へも日頃の会話の中から聞こえてくる小さな要望を汲み取るように心掛けている。	利用者からは日常会話の中から意見を汲み取り、家族からは面会時や遠方の場合は電話で近況を報告する際に意見や要望はないか尋ねるようにしている。また、年賀状や暑中見舞い、ホーム便りを送付するため、読まれた感想を伺うこともあり、日々の業務や支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員ミーティングを開催、利用者への対応に関してだけでなく、業務内容の検討も行い、随時業務の見直しを行っている。	職員の意見は朝夕の申し送り時や毎月の職員会議のほか、休憩時間等にも意見や要望を聞いている。定期的個別面談は行っていないが、相談事がある時などは随時面談している。また、休みの希望が叶えられるよう勤務シフトを調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の支援や研修への参加、資格取得に伴う昇給があり、意欲的に取り組める環境にある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、特養との合同での勉強会に参加しているほか、ミーティング等で挙げた入所者の対応に対して、口頭だけではなく、実践しながら指導を行い、ケアへの理解を深めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に他施設職員と交流をする機会があり、各施設での活動情報や支援方法を聞き自施設での活動の参考にしている。※（現在は新型コロナウイルス感染症の為ZOOM対応）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族、事業者と連絡と連携を図り、現状と本人の要望や不安の把握に努め、関わり方やケアの方法について環境整備等の検討を行い、安心して施設生活が送れるよう重点的に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時におけるご家族との契約を通してサービス利用開始時には、必ずご家族の要望や困っている事がないか確認している。ご家族が言葉として出されなくても不安に感じていることに働きかけをする様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は本人・家族の要望を聞き、可能な限り要望に応えられる様にしている。また施設入所までのケアの方法を継続してだけでなく、機能向上に向けて少しでも改善できる所があれば目指していくことを入所時に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と関わる際はコミュニケーションを重視し、出来ることは自ら可能な限りご本人に行ってもらい、身体機能低下の予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所と認知症が進むにつれて、家族の関わりが減少していつているのが現状。認知症であっても、家族を気にする言動が見られたり、面会時の表情の違いをお伝えし、家族と利用者が今まで通りの関係を継続しているよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限が緩和され、15分程度であるが面会が可能になった。遠方や制限等がある方向けにzoomを使った方法も可能。また隣接ユニットには、同じ集落出身で顔なじみの方もおられるため、合同レクを通じ馴染みの関係を築けている。	これまでの馴染みの場所や人間関係を入居前アセスメントにおいて詳しく聞き取るほか、入居前のケアマネジャーや医療機関からの情報も参考にしながら、友人や知人との関係が途切れないよう面会や電話、手紙の取り次ぎ等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士による自発的な会話や手助けする姿が見られりと、とても良好な関係が築けている。自ら積極的に話をされない利用者へは、職員が仲介し他者との交流が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから退所となった場合でも、退所先と随時情報交換を行う様にしている。 また、同法人の特養へ入所した際は、GH入所者も一緒に面会や合同行事に参加するなど、退所後の関係も継続されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への聞き取りに加え、入浴中や日常の何気ない会話や表情、活動状況の中から本人の希望や意向の把握に努めている。	本人の思いを普段の様子や声を掛けた時の表情から汲み取れるよう努めている。また、生活の中での気付きは申し送りノートに記入し閲覧しており、必要に応じて申し送りや職員会議でも話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人・家族・今まで利用していた事業所スタッフから情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月実施しているミーティングの中で、個別にひとり1人の現状や今後の課題や対応について話し合う機会を設け、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは関わる全職員で実施。介護計画は本人、家族の要望に合わせ、且つ残存機能を活用し機能低下予防に向けた内容になるよう心掛けている。	日常会話や様子から本人の意向を汲み取り、家族からは来所時や電話で意向を確認しケアプランに反映させている。また、毎月のカンファレンスや定期モニタリングのほか、主治医の意見や健康管理に来られる看護師の意見や助言も参考にしながらケアプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別に毎日実施。業務日誌、介護日誌、ケース記録、排泄チェック、バイタルチェック、食事量チェック表を活用し、情報の把握・共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良等で日頃と状態が変わった時は、その時の状態に合わせたケアの提供を行っている。状態改善時も話し合いの上、ケア内容の見直しをすることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症から、外出制限をしている。地域資源の活用としては町内の神社に初詣に行く非接触ドライブを行ったり、御家族の面会が15分程度できるようになった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所と同時に隣接している吉重クリニックがかかりつけ医となっているが、歯科等は、入所前からのかかりつけ医への受診を行っている。	訪問診療を受けられる安心感から現在、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医として登録しており、2週間に1回訪問診療を受けている。受診の内容はケース記録に記載するほか、訪問診療綴りも活用して情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回は必ずクリニックNSにより健康チェックが行われるほか、体調不良時に健康管理ファイルにて状態報告を行い、指示を仰いでいる。緊急時は直接ドクターへ連絡し、速やかな対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急な入院等に備え持ち出し用のサマリーを準備している。ADLや日頃の過ごし方、注意点などを記載している。入院中も定期的にSWなどから状態を電話で確認し、状態確認や情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた指針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同敷地内に同法人の特養があることから、GHでの看取りは行っていない。入所時に看取りに対する指針を説明、同意を得ている。身体状況の悪化に伴い、GHでの対応が難しくなってきた時は、主治医・家族と相談の上、本人と家族が望まれる場合は、特養入所を進めている。その為、特養の相談員へも入所者の近況報告を定期的に行っている。急変時や終末期における医療等に関する意思確認書を作成し家族との確認をおこなっている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、入居時に説明と同意を取り交わしている。また、重度化に関する研修会も実施して事業所のできる対応についてを話し合っている。事業所としては看取りは行わない方針であるため、看取り指針は整備しておらず、入浴が困難となったり、排泄が難しくなった場合等には医師や家族との話し合いの下において特別養護老人ホームへの入所につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を作成して、定期的に訓練を行うようにしている。事故発生時はミーティングを行い、事故時の対応を再現・発生原因の究明、今後の対策を検討し、再発予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災避難訓練・消火訓練、通報訓練を自主的に行っていく計画を立て実施している。	年2回夜間想定を含む火災訓練を隣接する特別養護老人ホームと合同で実施している。備蓄については飲料水や災害用備蓄食を約3日分程度備えるほか、ヘルメットやカセットコンロ、アルミシート等の備品も準備しており、昨年は自家発電機の設置も済ませている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に、その場その時の状況に合わせた声掛けを行える様に、接遇や対応策の具体例など、独自の勉強会を行っている。	権利擁護や接遇、認知症に関する研修会を実施し、カルテや排泄チェック表など人目に付かないよう管理するほか、トイレ誘導の際は耳元で声を掛けたり、申し送りは利用者に聞こえないよう利用者から少し離れた場所で行うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	お茶や食事、入浴時など、ゆっくりと過ごす中で、コミュニケーション・スキルを図りながら、本人の希望や思いを聞くように心掛けている。手伝い裁縫など要求があった時は行ってもらっている。お風呂の準備で着たい服の決定やメニューを選び食べたい物の決定が出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に合わせて活動されている。基本的に日中は皆様ホールにて過ごされており、テレビ鑑賞や新聞やチラシを見たり、談話をしたり、家事手伝いを自分のペースでされている。昼寝の時間を作り、希望される方は居室で休まれる等、各々好きなように過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類は基本的には本人の着たいものを着ているが、季節や外出に見合った衣類を選べない方も多い為、援助を行っている。衣類の汚染があった時にはその都度更衣し整容に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りで職員が準備している。昼夜はカロリー計算されたお弁当を提供している。毎週日曜日は季節や行事に合わせたメニューや誕生日には本人の食べたい物を聞き取り、メニューに取り入れるようにしている。毎食後、当番制で食器洗いや食器拭きなどの片付けも共に行っている。	平日の昼食と夕食は外部委託としているが、朝食と日曜日は事業所で調理するため、利用者の食べたい物は日曜日に提供している。調理の際は利用者も野菜の下ごしらえやカットなど包丁を使って参加してもらうなど、できることに取り組んでももらっている。また、調理レクとしてホットプレートを使ったおやつ作り等に楽しく取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼夜はカロリー計算されたお弁当が届くため、個別に個人の状態に合わせた量・形態での食事を提供している。中々水分を摂取しない方には、ジュース等での水分補給を勧めている。医療面で指示がある場合は、主治医の指示のもと食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前やおやつ前の嗽や毎食後の義歯洗浄に加え、義歯洗浄剤を用いての義歯消毒を毎日実施している。拒否がある方はいつでも気が向いた時に口腔ケアが出来るようセッティングしている。毎食前、口腔体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	新規で入所された際は、必ず排泄方法の見直しを行い、個別に排泄量や排泄回数に合わせてのトイレ誘導や尿パット使用を心掛けている。排泄感覚がない方でも、排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行うことで失禁予防に繋がっている。	おむつを利用している利用者はおらず、半数の方が布下着であり、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。夜間は容量の多いパットを使用し、起こしてまでトイレ誘導は行わず、パット交換など状況に合わせた排泄ケアを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、排便状態に応じて、下剤が必要な方は下剤調整を行っている。 又、水分補給を勧めたり、ヨーグルトやカルピス、牛乳等の乳製品をほぼ毎日交代で摂取している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間や曜日は決まっているが、入浴拒否がある場合は、時間をずらしたり翌日入浴や更衣のみ実施する等して対応している。浴室には季節感を出すため四季折々の装飾を施している。また、アロマの入浴剤や音楽を流すことでリラックスした気分を味わって頂いている。	週2回冬至にゆず湯を提供したり、日常的にアロマ入浴剤を使用するほか、脱衣場より好みの音楽を流すなど入浴時間を楽しく過ごしている。入浴をためらう場合は、声掛けのタイミングや内容を工夫することで無理強いすることなく入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休めるよう、日中は出来る限り離床して過ごして頂き、昼食後30分の昼寝の時間を設けている。個々の状態に合わせた寝具の利用や湯たんぽ・加湿器の使用にて快適な睡眠が取れるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護計画作成時と個人ファイル、薬手帳にて薬の名前、効能を、各職員確認をしている。内服の変更時は、健康管理ファイル、業務日誌にて情報共有を行っている。個々の状態に応じて、安全に服薬出来るよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日付確認や、毎月の壁画作成等、季節ごとの行事を行い、季節を感じたり昔を思い出しながら楽しく過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防により外出を自粛しているが、晴天時は、施設内散歩、畑の草取りや野菜の収穫を行っている	日常的に施設内を散歩したり、ウッドデッキにおいてレクリエーションやお茶を飲むなど外気浴の機会を設けている。施設外への外出はまだ自粛しているところであるが、今年は車窓からではあるが初詣に出かけるなど町内を1周するドライブを実施することができ利用者の皆様に喜んでもらうことができた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事を気にされる方は家族と相談の上、数千円のみを渡しているが、どこに直したか分からなくなり探しが頻繁になったり、盗られたと聞かれるようになった時には、本人の理解を得た上で事務所や家族で管理するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも出来る状態にある。また職員の用事で家族へ電話連絡した際には利用者にも電話を替わり話ができるように心掛けている。遠方の家族へはお便りやハガキを送るなどして、利用者の現在の状態確認ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールは畳が敷いてあり、暖かい家庭的な雰囲気がある。又大きな窓から見える山を見て季節の移り変わりを感じる事が出来る。10月以降はホール・に加湿器を設置し、乾燥・感染症予防に努めている。共用の空間は、定期的に清掃行い清潔保持に努めている。	フロア中央部の畳スペースにソファを置き、庭に咲いた花を摘み飾ったり、季節毎に利用者と職員が一緒に作った壁画を飾るなど明るい雰囲気となっている。空調に関しても加湿器兼空気清浄器を備えるとともに、こまめに換気に努めることで感染症予防につなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールにはソファがあり、日中は殆どの方が居室に行かれる事はなく、皆さんと談話されたりテレビ鑑賞等して過ごされている。職員が入らなくても、利用者同士コミュニケーションが図れていおり、笑顔も多くみられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の状態に合わせた配置となっており、室内には位牌や家族の写真などを置き、家族が遠方にいても身近に感じられるようにしている。	エアコンにタンス、電動ベッド（一部市販、ギャッジタイプ）が備え付けられるほか、テレビや位牌、写真など馴染みの品を持ち込み自由に配置している。また、趣味の生け花を楽しむよう剣山等の道具を持参している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じたベッドの提供や手すり、トイレを設置し、無理なく安全に過ごせるよう配慮している。床材にはコルク・居室は畳が敷いてある等、安全を考慮した作りになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない